

お知らせ

平成24年4月11日

子ども・子育て県民意識調査について

大分県では「子育て満足度日本一を目指す大分県」の実現に向け、平成22年3月に策定した「新おおいた子ども・子育て応援プラン」に基づき、各種の子育て支援施策を実施しています。

平成24年度はプランの中間期にあたることから、県民の子育てに関する生活実態や子育て支援に対する意見・要望などを把握するため、「子ども・子育て県民意識調査」を実施しました。

この調査結果を今後の県内の子育て支援施策の推進に活かしてまいります。

ポイント

「子育て満足度の総合的な評価指標」に掲げられた6項目については、3項目について進捗がみられましたが、3項目については進捗がみられませんでした。

【進捗がみられた3項目】

- ②子育てが地域の人に支えられていると答えた人の割合
(就学前児童・小学生を持つ親) (64.8%→66.3%)
- ③子育て支援(保育)サービスを知っていると答えた人の割合
(就学前児童を持つ親) (56.2%→59.6%)
- ⑥6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連時間(36分→2時間56分)(参考)
⑥については、平成18年社会生活基本調査と調査方法が大きく異なることから参考数字となっています。

【進捗がみられなかった3項目】

- ①希望した時期や時間に保育サービスを利用できると答えた人の割合
(就学前児童を持つ親) (68.9%→68.0%)
- ⑦夫も妻も同じように子育てを行うことが「理想と答えた人」に対して、「実現できていると答えた人」の割合 (31.4%→27.3%)
- ⑧妊娠から出産までの間に満足感・充実感があつたと答えた人の割合
(就学前児童・小学生を持つ親) (88.6%→86.6%)

1	調査期間	平成23年12月9日～平成23年12月22日		
2	調査対象者	就学前児童の保護者	県下18市町村1,600人を無作為抽出	
		小学生の保護者	県下18市町村1,400人を無作為抽出	
3	回収率	就学前児童の保護者	47.4%	有効回答数 759
		小学生の保護者	46.6%	有効回答数 652
		計	47.0%	1,411人

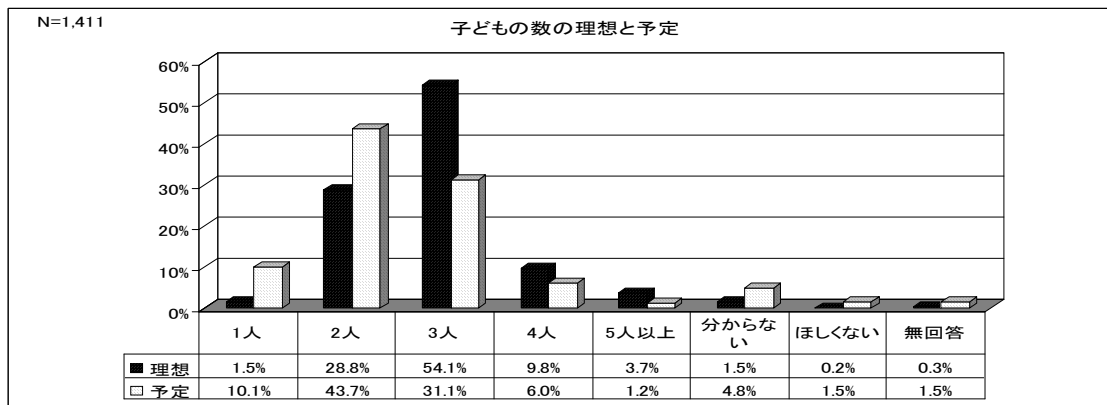
(本文中「前回調査」とは、平成21年8月実施の「次世代育成支援に関するニーズ調査」(県内市町村調べ)をいいます。)

4 主な調査結果

★理想とする子どもの数と実際に予定している子どもの数

子どもの人数については、理想は3人が最も多く、予定は2人が最も多くなっています。(理想の平均 2.81人、予定の子どもの平均 2.37人)

理想よりも予定の子ども数が少ない人は、全体の36.9%となっています。



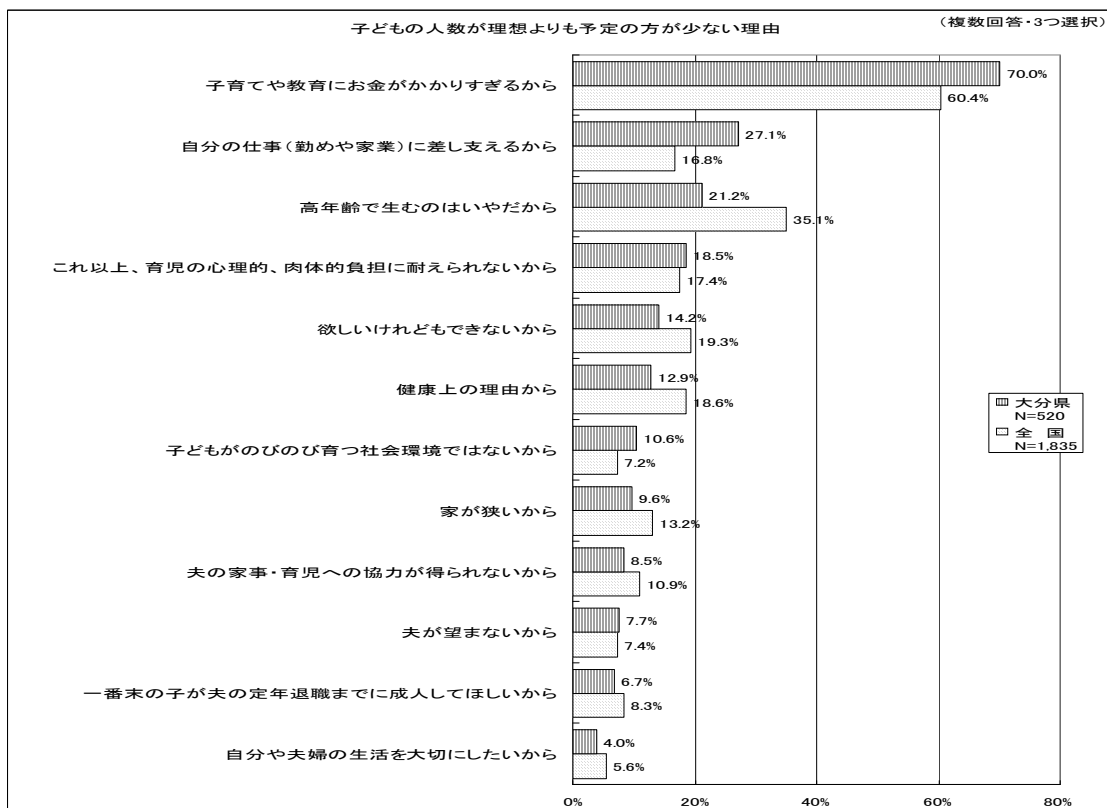
★理想よりも予定の子ども数が少ない理由

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が圧倒的に多く70.0% (全国60.4%※1)

2番目に「自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから」で27.1% (全国16.8%)

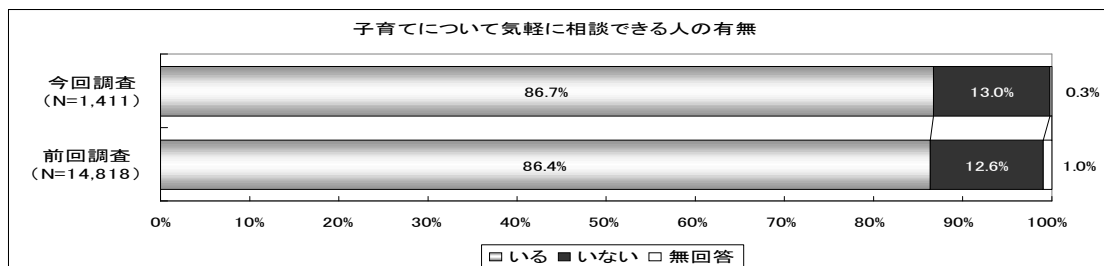
次いで「高年齢で生むのはいやだから」21.2% (全国35.1%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」18.5% (全国17.4%) となっています。

(※1 全国は「第14回出生動向基本調査」(国立社会保障・人口問題研究所)2010年より)



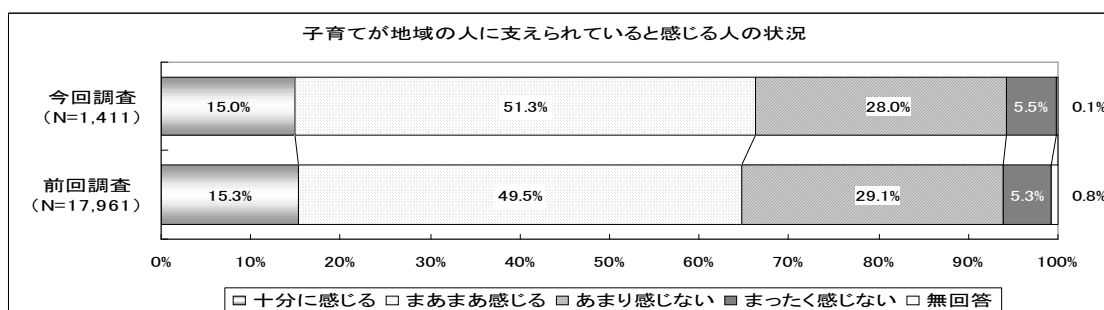
★子育てについて、気軽に相談できる人の有無

1割強の人が、気軽に相談できる近所の人や友人がいないと回答しています。



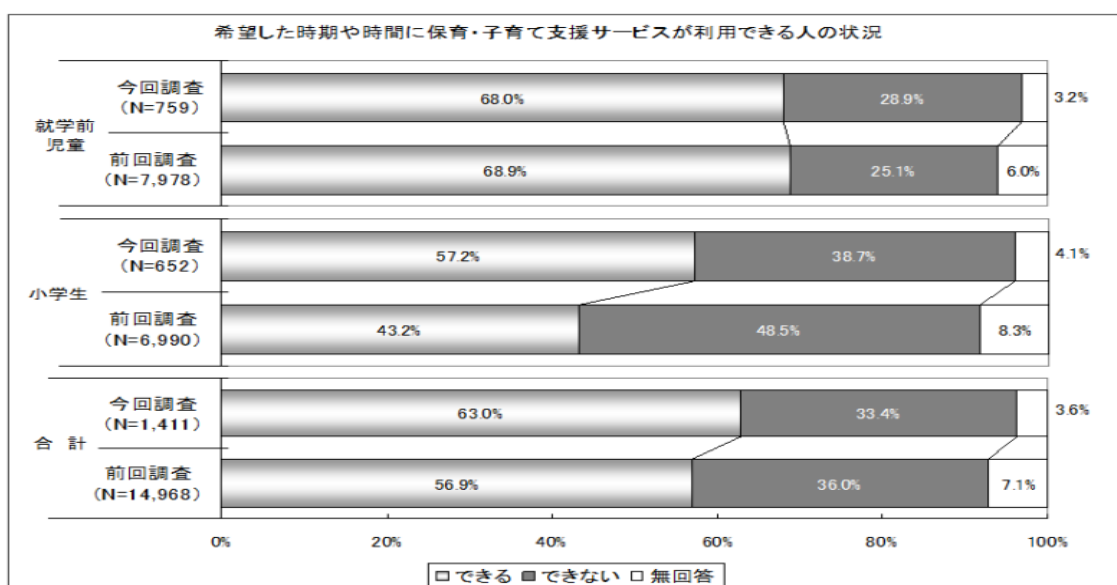
★子育てが地域の人に（もしくは社会で）支えられていると感じている割合
(プラン総合的な評価指標②)

子育てが地域の人に支えられていると感じている（十分に感じる+まあまあ感じる）人は 66.3 %で、前回調査 64.8 %より微増していますが、一方、感じていない人（あまり感じない+まったく感じない）が 33.5 %います。（前回調査 34.4 %）



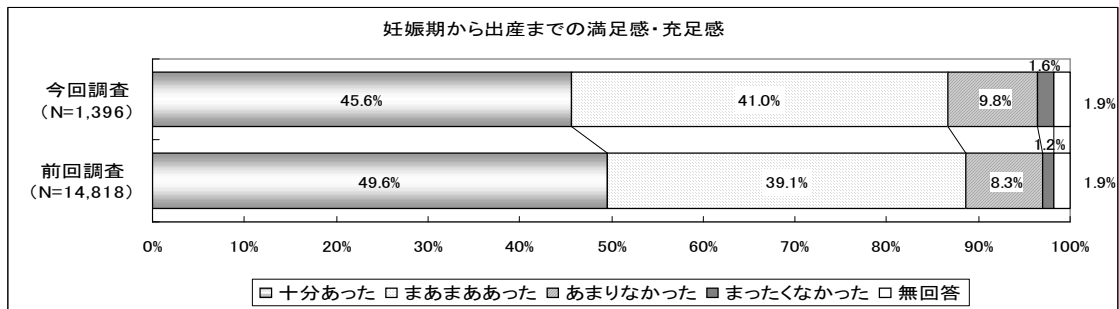
★希望した時期や時間での保育・子育て支援サービスの利用の可否
(プラン総合的な評価指標①)

希望した時期や時間に保育・子育て支援サービスが利用できると答えた人は 63.0 %で、前回調査 56.9 %より増えています。プランの総合的な評価指標となっている就学前児童を持つ親については、68.0 %とわずかに減少しています。（前回調査 68.9 %）



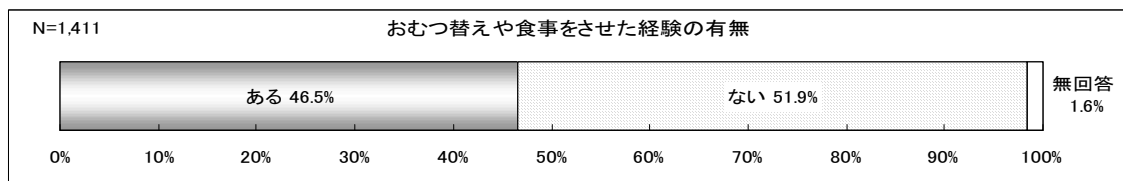
★妊娠期から出産までの期間の満足感・充実感（プラン総合的な評価指標⑨）

満足感・充実感があった（十分あった+まあまああった）人は 86.6 %で、8割を超える人が満足感を得ていますが、前回調査 88.6 %と比べるとわずかに減少しています。



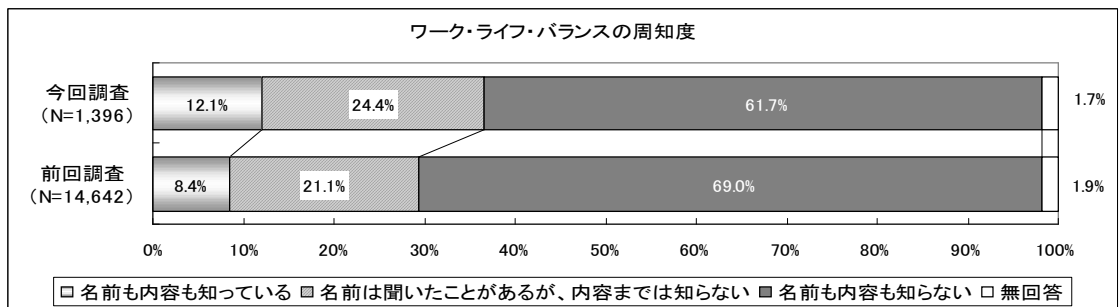
★子どもが生まれる前のおむつ替えや食事をさせた経験の有無

子どもが生まれる前に、おむつを替えたり食事をさせた経験のない人が 51.9 %となっています。



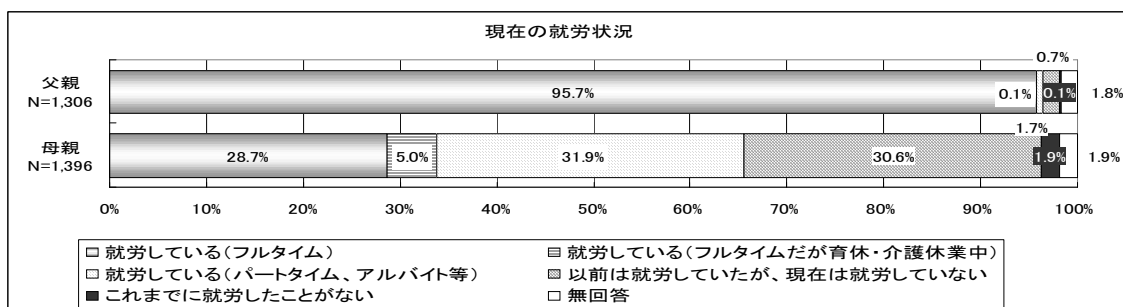
★「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の周知度

「知っている」（「名前も内容も知っている」+「名前は聞いたことがある」）の割合は 36.5 %で、前回調査 29.5 %に比べると増加していますが、「名前も内容も知らない」が 61.7 %と最も多くなっています。



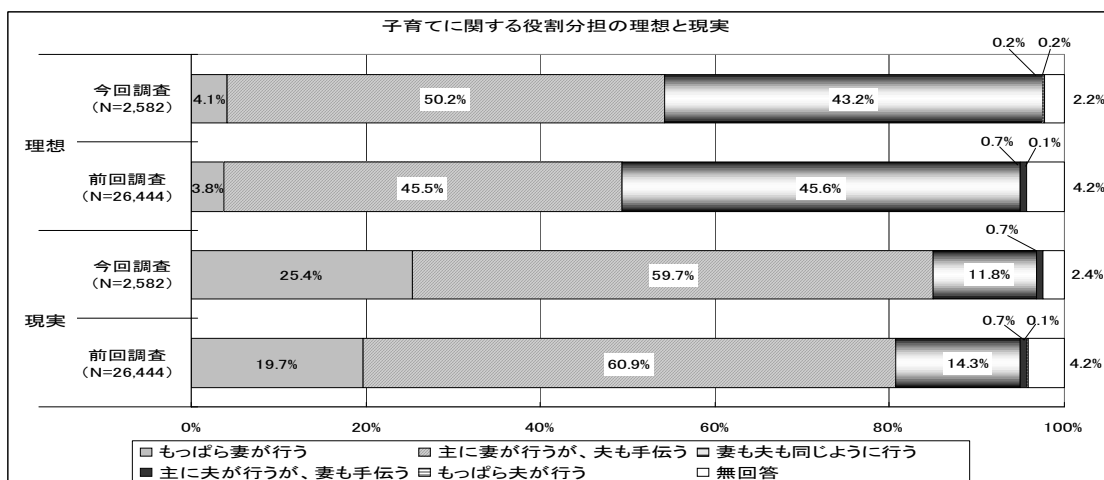
★現在の就労状況

6割強の母親が就労している状況です。

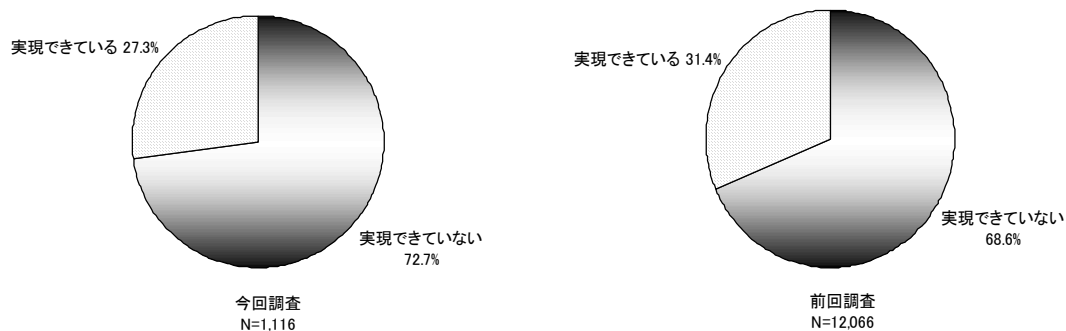


★父親・母親の子育てに関する役割分担の理想と現実の姿(プラン総合的な評価指標⑦)

「夫も妻も同じように子育てを行うことが理想」と答えた人に対して、実現できていると答えた人の割合は27.3%となっており、前回調査の31.4%より減少しています。

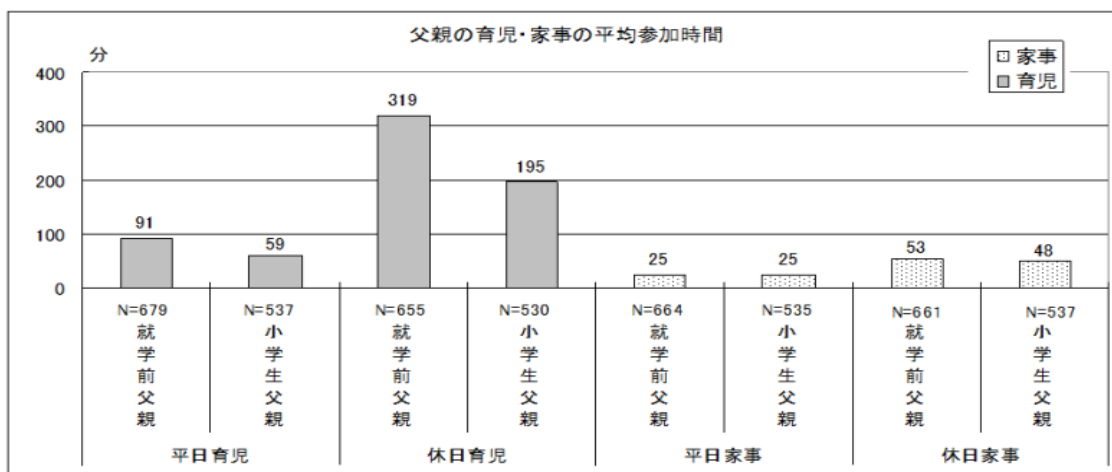


「夫も妻と同じように子育てを行う」の実現割合



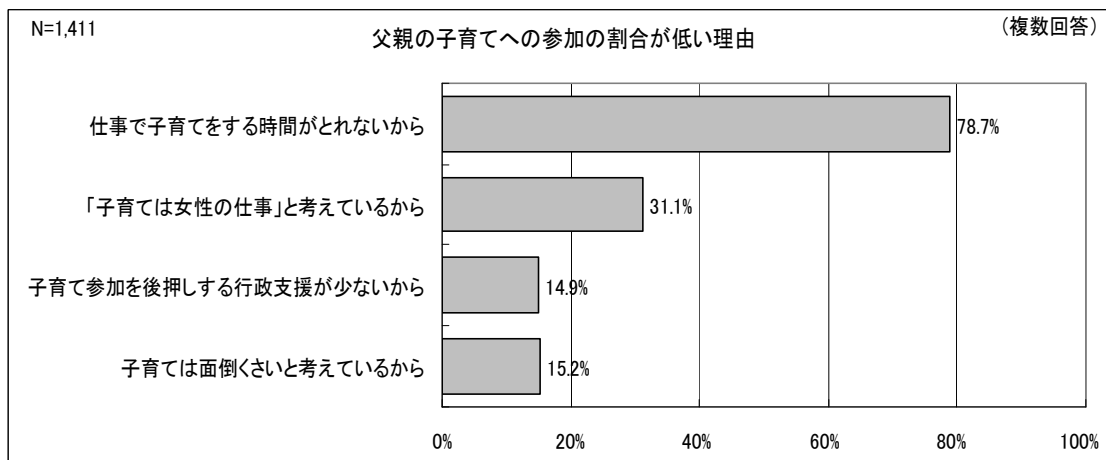
★父親の育児・家事の参加時間(プラン総合的な評価指標⑥)

家事への参加時間は、就学前児童の父親と小学生の父親での差は大きくありませんが、育児への参加時間は、就学前児童の父親は小学生の父親に比べ、6割程度多くなっています。また、休日に4時間以上育児に参加する父親が4割以上となっています。



★父親の子育てへの参画の割合が低い理由

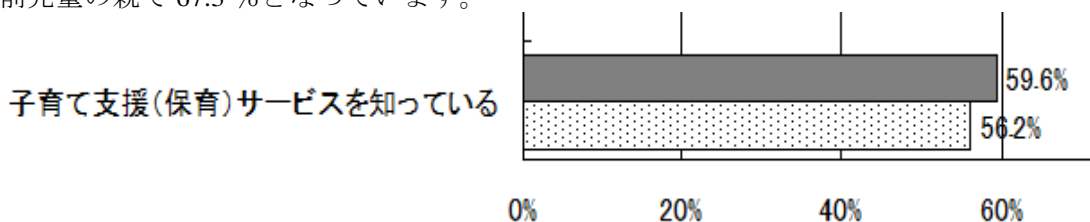
最も多いのは「仕事で子育てをする時間が取れないから」で、78.7%となっています。



★子育て支援サービスの周知度 (プラン総合的な評価指標③)

就学前児童の親で「子育て支援(保育)サービスを知っている」と答えた人の割合は、59.6%で、前回調査の56.2%からわずかに伸びています。

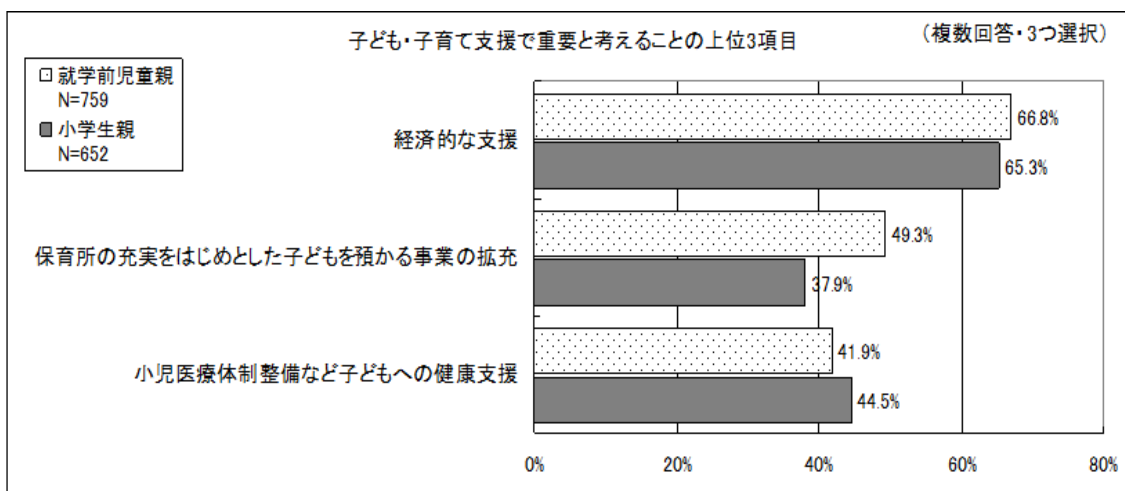
平成22年4月から設置している「いつでも子育てほっとライン」の周知度は、就学前児童の親で67.3%となっています。



★子ども・子育て支援において重要であるとするもの

最も重要と考えているのは、「経済的支援」で66.1% (全国72.3%※2)、次いで「保育所の充実をはじめとした子どもを預かる事業の拡充」44.0% (全国38.1%)、「小児医療体制整備など子どもへの健康支援」43.1% (全国25.4%)となっています。

(※2 全国は「平成20年度少子化社会対策に関する子育て女性の意識調査」(内閣府)より)



★「新おおいた子ども・子育て応援プラン」総合的な評価指標の進捗状況

本調査における、総合的な評価指標の進捗状況については、「子育てが地域の人に支えられていると答えた人の割合」及び「保育サービスを知っていると答えた人の割合」がわずかながら増加しています。「6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連時間」は、平成18年社会生活基本調査と調査方法が異なり、一概には比較できないため参考数値としています。（平成21年社会生活基本調査の調査結果は、平成24年9月末頃公表予定）

反面、「希望した時期や時間に保育サービスを利用できると答えた人の割合」、「夫も妻も同じように子育てを行うことが『理想と答えた人』に対して、『実現できていると答えた人』の割合」、「妊娠から出産までの間に満足感・充実感があつたと答えた人の割合」は減少しており、引き続き、多様な保育サービスの充実やワーク・ライフ・バランスの推進等に取り組んでいく必要があります。

「新おおいた子ども・子育て応援プラン」子育て満足度の総合的な評価指標の進捗状況						
総合的な子育て満足度の主要な事項		指標	前回値 (H21.8)	今回値 (H23.12)	目標値 (H26年度)	達成状況
地域における子育て支援	(1) 子育て家庭が出産や子育てに楽しさや充実感を感じることができる	① 希望した時期や時間に保育サービスを利用できると答えた人の割合 (就学前児童を持つ親)	68.9%	68.0%	100.0%	→
		② 子育てが地域の人に支えられていると答えた人の割合 (就学前児童・小学生を持つ親)	64.8%	66.3%	100.0%	→
	(2) 子育て支援サービス情報の提供	③ 子育て支援(保育)サービスを知っていると答えた人の割合(就学前児童を持つ親)	56.2%	59.6%	100.0%	→
子育ても仕事もしやすい環境づくり	(4) 夫婦がともに、家事や育児に関わることができる	⑥ 6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連時間	36分	(28時間56分)	1時間45分	↗
		⑦ 夫も妻も同じように子育てを行うことが「理想と答えた人」に対して、「実現できていると答えた人」の割合	31.4%	27.3%	100.0%	→
子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり	(6) 子どもが心身ともに健やかに育つことができる	⑨ 妊娠から出産までの間に満足感・充実感があつたと答えた人の割合 (就学前児童・小学生を持つ親)	88.6%	86.6%	100.0%	→

※ 評価指標⑥については参考数値（週休2日と仮定して、1日平均の時間を計算）

問合せ先：こども子育て支援課
 少子化対策班 佐藤・二宮
 電話 506-2710
 (ダイヤルイン)